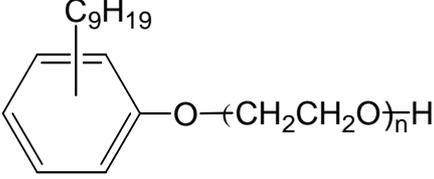


化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 44	官報公示 整理番号	7 - 172(化審法) 1 - 309(化学物質管理促進法)	CAS 番号	9016 - 45 - 9
名 称	ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル 別名: ノニルフェノールエトキシレート、ポリエチレングリコールモノノニルフェニルエーテル、ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル	構 造 式			
分子式	-	分子 量	-		
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 99.5%以上 不純物 : 不明 添加剤または安定剤: 無添加					
評価した本物質の酸化エチレンの付加モル数が n の場合、名称を nEO と表記した。					
物理・化学的性状データ 外 観: 白色固体(30~50EO)、淡黄色粘性液体(10EO) ²⁾ 融 点: 42~43 ²⁾ 沸 点: 268 ³⁾ 引 火 点: 文献なし 発 火 点: 文献なし 爆発限界: 文献なし 比 重: 文献なし 蒸気密度: 16.7(空気 = 1)(6EO) 蒸 気 圧: 文献なし 分配係数: 文献なし 加水分解性: 文献なし 解離定数: 文献なし スペクトル: 主要マススペクトルフラグメント 文献なし 吸脱着性: 土壌吸着係数 K _{oc} ; 6(6EO) ⁴⁾ 粒度分布: 文献なし 溶解性: ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル/水; > 1,000 mg/L(25 ⁴⁾) アセトン、エチレングリコール、ベンゼンなどの有機溶媒に可溶 ²⁾ 換算係数: 1 ppm = 20.2 mg/m ³ (6EO) (気体, 20 ⁴⁾) 1 mg/m ³ = 0.049 ppm(6EO)					

総合評価

1) 危険有害性の要約

本物質を有効成分として含む製品で、ヒトに対してアレルギー性皮膚炎の発症を示唆する報告がある。慢性影響としては、腔内投与により子宮頸部及び腔への影響がみられ、本物質を含む殺精子剤を使用した女性で先天異常を持つ出生児の数が非使用者に比べて2倍以上増加しているほか、腫瘍の発生も報告されている。

実験動物で本物質を有効成分として含む製品であるが、眼に対して強度、皮膚に対して中等度の刺激性の報告がある。慢性影響としては、多くの製品でラットに肝臓、腎臓への影響がみられ、影響がないものもある。イヌでは嘔吐、肝臓重量の増加のほか、酸化エチレンの付加モル数 15-20 で心筋の限局性の変性、壊死がみられている。心筋変性及び壊死はイヌにはみられるが、ラットにはみられず、心筋への毒性には種差がみられている。変異原性・遺伝毒性については、報告は少ないが *in vitro* の報告はいずれも陰性であり、一報ではあるが、経口投与した実験では腫瘍の誘発はみられていない。生殖・発生毒性については、影響の認められない製品の報告と、一部の製品で母動物に影響がみられる用量で、児への影響がみられている報告とがある。母動物に影響のみられる用量で、経乳汁暴露による新生児への影響を示唆する報告がある。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されにくい、濃縮性は低い。本物質については環境省のモニタリングデータはないが、ポリ(オキシエチレン)アルキルフェニルエーテルについては水質及び底質から検出されたことがある。水圏環境生物に対する急性毒性は、酸化エチレンの付加モル数が小さいほど強い傾向が認められる。付加モル数 10 以下の物質の水圏環境生物に対する急性毒性は、魚類に対しては強い。

2) 指摘事項

- (1) ヒトで、本物質を有効成分として含む製品によるアレルギー性皮膚炎が疑われている。
- (2) 実験動物で、本物質を有効成分として含む製品による眼及び皮膚に対する刺激性がみられている。
- (3) 実験動物で反復経口投与により肝臓、腎臓、心筋への影響がみられている。
- (4) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) (財)化学物質評価研究機構資料(2001).
- 3) ChemFinder, <http://chemfinder.cambridgesoft.com/>(2001).
- 4) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(2001).